

第6章 鼎談「日本、そして世界の未来のために」

鼎談・2018年7月24日（立教大学 12号館会議室にて）



# 1. 近代教育がもたらした 日本人の劣化

言えば、やはり、これまで主流であった物質重視、経済効率優先といった価値観を、少し修正していくということがまず第一じゃないでしょうか。

濁川 それでは、何から話しましょうか。先生

生方が第5章までにお書きになったことを踏まえて、日本人はいろんな特性を生かしながらどうあるべきか、というようなことを今日は先生方に語って頂きたいと思えます。話がどの方向へ流れるか分かりませんが、どっちの方に話が流れても良いと思います。僕は、個人的に語っていただきたいテーマが2,3ありますし。

濁川 それは、日本人にとって、ということですよ。

長堀 はい、まず、できることからですね。特に日本人は昔から、物質を超えた見えな世界に祈りを捧げる、感謝を捧げる、という風習を大切にしてきた民族なので、このような価値観の転換は行い易いんじゃないかと思えます。

長堀 これまで本書で語られてきた流れとい

うのは、今後、どう考え、どう行動するかというところに集約されてくるのかと思います。考え方や発想の転換という観点から

濁川 長堀先生は、だから5章の中で、3.

11を契機にして、もともと日本人が持っていたその種の感性がだいぶん見え隠れしてき

た、ということも言われてましたね。



長堀　そうですね、まずは、人間というのは死んでしまうんだということを忘れてはならないと思います。これまで、特に物質重視の社会においては、死というのは望まし

いものではないから、考えないことにしておこうとみなされて来ましたけれども、そうではなくって、死を見すえた上で、今生きていることに感謝しようよ、というような東洋的な発想がですね、実は3・11あたりからひろがってきているのではないかなと感じます。

濁川　なるほどね。その辺は2章で武士道にからめて、語っておられましたよね。もうどうせ死んじゃって、いくらここで蓄財しても、どうせあの世に持って行けないんだったら、そんなことは二の次にして、今生きていることで、いかに人に喜ばれるか、それは最終的には利他の行いをするのが一番それに近いんだということをおっしゃっていて、もう僕も随分それに共鳴して読ませて頂きましたけれど。

長堀 もちろん、物質的な豊かさというものも、生きていく上では必要なのですけれども、そちらにあまりにもバランスが行き過ぎてしまったというところで、奪い合いや争いのもとになってますよね。社会が落ち



着かない、一つの要因じゃないかなと思います。

濁川 「物質的に豊かになれば、幸せになれる」というふうな勘違い。

矢作 先生いかがですか、その辺り。

矢作 ええ、そうですね。だからやっぱり明治維新以降、西洋に、その精神性に合わせるように日本が動いてきてしまったということが、基本的にはあるので。戦後だけではなく、明治維新と戦後のこの2回、われわれの精神性が落ちるきつかけがあったので、そういうことを認識しておかなければいけないですよ。あまり言いたくないけれども、「西洋化」ということは、精神性としては、やはり落ちるので、いわゆるグローバル化というのは、精神性を落とすこ

とを前提にやらないといけないことを理解しとかなないとね。つまり、西洋の、物に対する際限のない欲をもつ人たちの世界に合わせしていくことですから。



濁川 逆にいうと、江戸期まではけっこう精神性の高いレベルを日本人としては維持していたということですか？

矢作 そうですね、少なくともいわゆる、なんていうんでしょう……、「うしはける（支配する）世界」ではなかったわけですよ。

濁川 先生の言われる「しらす（わかち合う）」という考え方で。

矢作 なので、西洋って結局は、「力は正義」で、まあもつとはつきり言えば、輪廻を公には認めてないスタイルをとっているの、ひじょうに場当たり的というか、だから「力は正義」で、済んでいるのじゃないけれども。そのところに日本人が合わせるといふのに無理が当然あったわけ。も

ちろん科学とか理屈で考える分にはそれでいいのでしようが、「道徳」とかいった場合には当然、無理があるので。だからそういうようなことでわれわれが、もともと持っていた精神性を落としているということとを認識していないと、「西洋かぶれ」などというのは、まったくナンセンスで。結局じゃあ何でモノにシフトしたのかということ、結局そういう精神的なものが未熟だからですよね。

重要なことは、結局明治維新で、無くなったものは、全人教育なのです。学校で全人教育、つまり、官立大学を頂点として、全人教育をしなくなったのですよ。で、江戸時代までの寺子屋は全人教育だったのです、基本として。それが無くなったという意味で、明治の、教育の偏りを明治天皇が心配なされたわけです。

濁川 先生、その全人教育を、もうちよつと具体的に。

矢作 だから、例えば、徳性ですとかね、五感とか。五感というのは、例えば「お天道様が見てますよ」という感性を自然に持てることですよね。

それから、当然、理性も磨いたし、だから、理性と直観のバランスを、例えば、道徳というものが、天秤というか、いわゆるそういうものを取りもったわけです。

濁川 明治維新で、それを取っ払った。

それまでは、長堀先生が書かれているように、武士道っていうものが江戸ぐらいまではしっかりあって、それが精神的な支柱になっていた。ところが明治維新以降、西

洋の力で経済的な価値観みたいなのを押し付けられたという、そういうことですか。

長堀 それはあると思いますが、あともう一つ、江戸は文盲率が低い社会だったということをお忘れてはなりません。それは西洋人が驚いているところなんですけれども、寺子屋の役割も大きかったです。やっぱり教育なんです。教育の場では、古典を暗唱させるとか、朗読させることも大事です。それを寺子屋でやっていたわけですよ。そういう草の根の教育が日本の強さだったでしょうし、明治維新を超えて、まだ、戦前までは残っていたと思うんです。でも、戦後、GHQにより教育は壊されました。特攻隊員の遺書を展示してある資料館がいくつも日本全国にはあるのですが、どこに行っても、達筆で、しかも素晴らしい精

神性を窺わせる文章を、18、19歳の若者が書いているわけですよ。大人である私たちが恥ずかしくなるような見事な遺書が展示されている。アメリカは恐れたといいますけれども、やはり素晴らしく高い精神性があつたと思いますね。

濁川 戦前までは、まだかろうじて残っていた。だって、明治の人たちの気骨とか大正の人たちの精神性はまだ高いって、よくいわれますもんね。西洋文化が入って来たとはいえ。

長堀 まあ、だからこそ、戦後、徹底的に壊したわけですよ。日本人の精神性の根幹である教育を、アメリカは破壊しつくしたのです。

## 2. アメリカの徹底的な

### 日本人つぶし

濁川 アメリカはある意味、正しく日本人を認識していたということですよ。日本人のその一番重要な部分を：アメリカはすぐ、それを見抜いたんですかね？

矢作 アメリカは長い時間をかけて、日本のことを研究していましたからね。だからもう、昭和16年には、今のCIAの元になったOSS（※Office of Strategic Services—戦略諜報局）が、敗戦後の日本の指導の仕方というものまで既に決めていましたからね。

濁川 は、戦争が始まる前から。

矢作 ええ、だから、ひじょうによく日本というものを勉強していましたよね。

もっと、はつきり言えば、米国が日本をやっつけようとしたのは、1897年にセオドア・ルーズベルトが海軍次官になったその年ですから、その年というのは、翌年にハワイの併合をしますけれども、ハワイの次はもう日本と決めてたわけですからね。その間で、ずいぶん……政略的といえば聞こえがいいですけども、その、欲深さは、われわれの考え及ぶところじゃないですよ。

濁川 日本がやっぱり、それだけキーになるというか、日本人の底力を分かっていたから特にと、そういうことですか。

長堀 ちよつと「コラム 日本人の覚醒」で書きました、モーツアルトの『魔笛』<sup>まてき</sup>で書かれたもの。もし、国際銀行家の陰にいろと書かれたもの。もし、『魔笛』の時代から、何か日本についての秘密を知っていたとしたら、もう、かなり長いこと研究していたことになるのでしょね。

特に、最近、日本の古代文字である神代文字で、南米の碑文が読めてしまうというような驚くべき事実がどんどん明らかになっていきます。イルミナティーにしてみれば、そういった秘密も、やはり抑えたかった。知っていて欲しくなかったのかなと思いますね。

濁川 そうか、そうか。じゃ逆に言えばそういう事を全部知っていたわけですね。

長堀 まあ、そんな可能性もあるのかなというふうに思いますけれども。

### 3. GHQの洗脳を解くには

濁川 日本がそういうふうに変わっていった経緯<sup>いきさつ</sup>というのは、つまり西洋が入って来たという事と、それとここでは詳しく話していませんがGHQが日本の教育を崩壊させたという、それで日本人がダメになっただけという、そういう話ですよ。

GHQのことはもう先生方も、いっぱい本書に書かれていて、まあ、中を読んで頂ければ十分わかると思うんですけども。何か特に付け加えるようなことはありません

かね。

長堀 まさに今それが完成しようとしているわけですよ。日本の破壊と崩壊が。

濁川 矢作先生、これはGHQによるある種のマインド・コントロールだと思うのですが、マインド・コントロールを解くにはどうすればいいですか？

矢作 やつぱり、「認識」みたいですね。だから、「マインド・コントロールされた」ということを認識できるかどうかですね。

濁川 なるほど、なるほど。じゃあ、僕らが発信しているこの種の情報が重要なわけですね。

矢作 ええ。そうすると、ハッと気づけば、やつぱり責任はわれわれにあるんですね。そこをちよつと自分のこととして認識しないとね。

長堀 メディアも含めてですね、全て未だにコントロールされていますから。なかなか気づくというのは大変なのかもしれないですね。

### 希望の星、新しい若者たち

矢作 そうですね。まあ、ただ、だんだん例えば、テレビを視なくなるとかね、新聞を信じなくなるとか、週刊誌などはいかに及ばずというふうな形で、情報の取り方は変化してきていると思いますね。